

眞曰、文趣眞是奚焉 而是究竟也

龍曰、卷子皆同究竟乎

眞曰、佳文究竟所以

眞曰く、文の趣眞 奚 たるも^{※1}、究竟也

龍曰く、卷子皆同じう究竟ならずや

眞曰く、佳 文 究竟の所以^{※2}

眞巖が言った「この書どこか記されていようと、この書は究竟の書である」

龍鳳が言った「ならば、すべての書が究竟の書ではないですか」

眞巖が言った「それこそがこの書の究竟のゆえんである」

註) 龍峯寺の僧、眞巖が弟子、龍鳳の公案録「叙無記」 肇輯第十七段より抜粋。龍吞神社に奉獻された
龍吞神社奉納版（正本）と眞神神社の蔵する異本とがある。本書は最近（2015年5月）の研究成果に
より両者を参考文献として同等扱い、再構成した。

※1 龍吞神社奉納版には「文趣眞（ふみのころ） 奚焉（いずく）にしあるとも」とある。其解釋同義

※2 異本眞神神社眞倉蔵版には「佳文特異究竟の所以也」とある。其解釋同義